

2025(令和 7)年度 リハビリテーション学科 シラバス

リハビリテーション学科 目次

理学療法学専攻

教育課程（カリキュラムマップ）	4
カリキュラムツリー	5
3年生 年間予定表	6
シラバス	

開講科目	頁
理学療法研究法	8
理学療法管理学	9
臨床実習Ⅲ（総合実習）	10
臨床実習Ⅳ（総合実習）	11
地域理学療法実習	12

開講科目	頁
地域理学療法学演習	13
保健医療福祉連携論	14
専門支持科目特別演習	15
専門展開科目特別演習	17

作業療法学専攻

教育課程（カリキュラムマップ）	20
カリキュラムツリー	21
3年生 年間予定表	22
シラバス	

開講科目	頁
作業療法管理学演習	24
作業療法総合演習	25
臨床作業療法演習Ⅲ	26
臨床実習Ⅲ（総合実習）	27
臨床実習Ⅳ（総合実習）	28

開講科目	頁
地域作業療法実習	29
保健医療福祉連携論	30
専門支持科目特別演習	31
専門展開科目特別演習	33

ナンバリング	36
教員一覧	40
実務を有する教員一覧	41
オフィスアワー・成績評価	42

リハビリテーション学科 理学療法学専攻 3年生

- カリキュラムマップ
- カリキュラムツリー
- 年間予定表
- シラバス

リハビリテーション学科 理学療法専攻 カリキュラムマップ

学修成果(到達目標)

【基礎力】一般教養並びに各専門分野の基礎的能力

- ①人間、文化、社会、歴史、科学など、広く学術の基礎を学び人間性を涵養できる。
②人間の尊厳と多様な価値観を理解し、高い倫理観を持って健康を支援できる。

【実践力】各分野の実際の場面に対応できる力

- ①心身機能および生活上の問題に対して、多面的かつ根拠に基づいた論理的思考のもと課題を解決できる。
②リハビリテーション専門職者として、共感と倫理観に基づいて行動できる。

【人間関係力】専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力

- ①全ての人を全人的に捉え、理解し、コミュニケーションを図ることができる。
②他者の考えや立場を尊重し、良好な人間関係を築くことができる。

【生涯学習力】生涯にわたって学び、成長できる力

- ①リハビリテーション専門職者として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に向け取り組むことができる。
②自己の専門領域を学術的に探求できる。

【地域理解力】地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力

- ①保健、医療、福祉の現場において、リハビリテーション専門職者として専門性と責任を自覚して地域社会に貢献できる。
②医療の進歩や高齢社会を踏まえ、時代や地域のニーズに応えることができる。

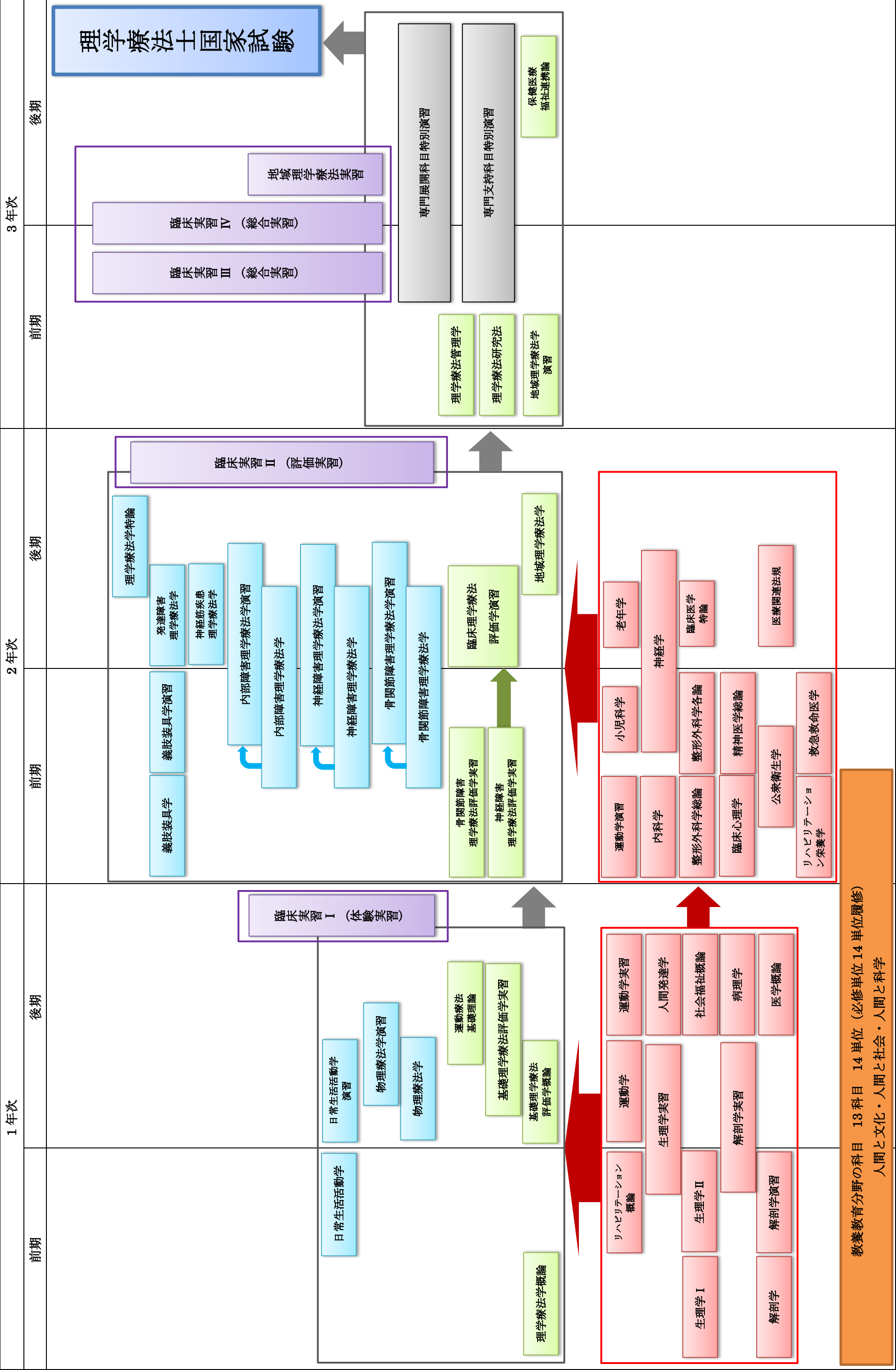
学修成果 : 1 基礎力 2 実践力 3 人間関係力 4 生涯学習力 5 地域理解力

学修成果とは、学生がその授業科目で何ができるようになったかを表すものです。
●は、各授業科目が学修成果の1～5のどれに当てはまるかを表すものです。

科目 区分		授業科目の名称	授業形態		授業 回数	履修年次・学修成果																				単位数			
						1年次					2年次					3年次													
						前期	後期	学修成果					前期	後期	学修成果					前期	後期	学修成果							
			講義	演習	実習			1	2	3	4	5			1	2	3	4	5			1	2	3	4	5	必修		
教養 教育 分野	人間と文化	日本語表現法	○			10	○		●		●	●																1	
		コミュニケーション論	○			15		○			●	●	●															1	
		英語Ⅰ		○		10				●																		1	
		英語Ⅱ	○			8	○					●																1	
		歴史と文化	○			10									○		●			●								1	
	人間と社会	大学生生活論	○			15		○		●		●	●															1	
		暮らしの中の法律	○			10									○		●			●								1	
		現代の社会	○			10		○		●		●	●	●														1	
		心理学概論	○			8			○		●		●															1	
	人間と科学	情報処理		○		10		○			●		●															1	
生物学		○			8		○		●																		1		
物理学		○			8		○		●																		1		
健康スポーツ科学		○			15					●		●															2		
解剖学		○			15		○		●	●		●															2		
人体の構造・機能と発達		解剖学演習		○		15		○	●	●		●															1		
専門 教育 分野	専門支持科目	解剖学実習			○	22			○	●	●		●														1		
		生理学Ⅰ	○			15		○		●	●		●														2		
		生理学Ⅱ		○		15		○		●	●		●														1		
		生理学実習			○	22			○	●	●		●														1		
		運動学	○			15			○		●	●		●													2		
		運動学演習		○		15									○		●			●							1		
		運動学実習			○	22			○	●	●		●														1		
		人間発達学	○			15				○	●	●		●													1		
		病理学	○			8			○		●																	1	
		医学概論	○			15			○		●		●															1	
	疾病の成り立ちと回復	内科学	○			15									○		●			●								1	
		神経学	○			30									○		●			●								2	
		臨床医学特論	○			8										○		●		●								1	
		小児科学	○			8									○		●			●								1	
		整形外科総論	○			15									○		●			●								1	
		整形外科各論	○			15									○		●			●								1	
		精神医学総論	○			15									○		●			●								1	
		老年学	○			8										○		●		●								1	
		臨床心理学	○			15									○		●			●								1	
		リハビリテーション栄養学	○			8									○		●			●								1	
	保健医療福祉とリハビリテーション	救急救命医学	○			15									○		●			●								1	
		公衆衛生学	○			8									○		●			●	●							1	
		社会福祉概論	○			8			○		●		●															1	
		医療関連法規	○			8										○		●		●								1	
		リハビリテーション概論	○			15		○		●		●	●															1	
		基礎理学療法学	理学療法学概論	○			15		○		●		●																1
			運動療法基礎理論	○			15			○		●		●															1
			理学療法研究法	○			15														○			●	●				1
			理学療法管理学	○			15															○				●	●		2
			理学療法評価学	基礎理学療法評価学概論		○		15			○		●	●	●														
基礎理学療法評価学実習					○	22			○		●	●	●															1	
骨関節障害理学療法評価学実習						○	22				●	●	●			○		●	●	●								1	
神経障害理学療法評価学実習						○	22									○		●	●	●								1	
臨床理学療法評価学演習					○	30											○	●	●	●								2	
系統別理学療法学	骨関節障害理学療法学			○			30										○	●	●	●									2
	骨関節障害理学療法学演習			○		30										○	●	●	●									2	
	神経障害理学療法学	○				30										○	●	●	●									2	
	神経障害理学療法学演習			○		30										○	●	●	●									2	
	内部障害理学療法学	○				30										○	●	●	●									2	
	内部障害理学療法学演習		○		30										○	●	●	●									2		
	神経筋疾患理学療法学			○	15											○	●	●	●								1		
	発達障害理学療法学	○			15											○	●	●	●								1		
	物理療法学	○			15			○		●		●															1		
	物理療法学演習		○		15			○		●		●															1		
臨床実習	義肢装具学	○			15									○		●			●								1		
	義肢装具学演習		○		15									○		●		●	●								1		
	日常生活活動学	○			15		○		●	●	●																1		
	日常生活活動学演習		○		15			○		●	●	●															1		
	理学療法学特論			○	15										○		●	●	●								1		
	臨床実習Ⅰ(体験実習)				○	1週		○	●	●	●	●	●														1		
	臨床実習Ⅱ(評価実習)				○	4週									○	●	●	●	●	●							4		
	臨床実習Ⅲ(総合実習)				○	7週														○		●	●	●	●	●	7		
	臨床実習Ⅳ(総合実習)				○	7週														○		●	●	●	●	●	7		
	地域理学療法実習				○	1週														○		●	●	●	●	●	1		
地域理学療法	地域理学療法学	○			15										○		●		●								1		
	地域理学療法学演習		○		15															○			●	●	●	●	1		
	保健医療福祉連携論	○			15																○		●	●	●	●	1		
	専門展開科目特別演習		○		30																○		●	●	●	●	2		
特別演習	専門展開科目特別演習		○		30																○		●	●	●	●	2		
卒業要件：104単位																													

卒業要件:104単位

104



2025年度 リハビリテーション学科 理学療法学専攻3年生 年間予定表

前期

	日		月		火		水		木		金		土	
4月	30		31		1		2		3	入学式	4		5	
	6		7		8		9		10	健康診断	11		12	
	13		14		15		16		17		18		19	
	20		21		22		23		24		25		26	
	27		28		29	昭和の日	30		1		2		3	憲法記念日
5月	4	みどりの日	5	こどもの日	6	振替休日	7		8		9		10	
	11		12		13		14		15		16		17	
	18		19		20		21		22		23		24	
	25		26	臨床実習Ⅲ	27	臨床実習Ⅲ	28	臨床実習Ⅲ	29	臨床実習Ⅲ	30	臨床実習Ⅲ	31	
6月	1		2	臨床実習Ⅲ	3	臨床実習Ⅲ	4	臨床実習Ⅲ	5	臨床実習Ⅲ	6	臨床実習Ⅲ	7	
	8		9	臨床実習Ⅲ	10	臨床実習Ⅲ	11	臨床実習Ⅲ	12	臨床実習Ⅲ	13	臨床実習Ⅲ	14	
	15		16	臨床実習Ⅲ	17	臨床実習Ⅲ	18	臨床実習Ⅲ	19	臨床実習Ⅲ	20	臨床実習Ⅲ	21	
	22		23	臨床実習Ⅲ	24	臨床実習Ⅲ	25	臨床実習Ⅲ	26	臨床実習Ⅲ	27	臨床実習Ⅲ	28	
7月	29		30	臨床実習Ⅲ	1	臨床実習Ⅲ	2	臨床実習Ⅲ	3	臨床実習Ⅲ	4	臨床実習Ⅲ	5	
	6		7		8		9		10		11		12	
	13		14		15		16		17		18		19	
	20		21	海の日	22	地域実習	23	地域実習	24	地域実習	25	地域実習	26	
	27		28	地域実習	29	地域実習	30	地域実習	31	地域実習	1	地域実習	2	
8月	3		4		5		6		7		8		9	
	10		11	山の日	12		13		14		15		16	
	17		18	臨床実習Ⅳ	19	臨床実習Ⅳ	20	臨床実習Ⅳ	21	臨床実習Ⅳ	22	臨床実習Ⅳ	23	
	24		25	臨床実習Ⅳ	26	臨床実習Ⅳ	27	臨床実習Ⅳ	28	臨床実習Ⅳ	29	臨床実習Ⅳ	30	
9月	30		1	臨床実習Ⅳ	2	臨床実習Ⅳ	3	臨床実習Ⅳ	4	臨床実習Ⅳ	5	臨床実習Ⅳ	6	
	7		8	臨床実習Ⅳ	9	臨床実習Ⅳ	10	臨床実習Ⅳ	11	臨床実習Ⅳ	12	臨床実習Ⅳ	13	
	14		15	敬老の日	16	臨床実習Ⅳ	17	臨床実習Ⅳ	18	臨床実習Ⅳ	19	臨床実習Ⅳ	20	
	21		22	臨床実習Ⅳ	23	秋分の日	24	臨床実習Ⅳ	25	臨床実習Ⅳ	26	臨床実習Ⅳ	27	
	28		29		30		1		2		3		4	

2025年度 リハビリテーション学科 理学療法学専攻3年生 年間予定表

後期

	日		月		火		水		木		金		土	
10月	28		29		30		1		2		3		4	
	5		6		7		8		9		10		11	
	12		13	スポーツの日	14		15		16		17		18	
	19		20		21		22		23		24		25	せいよう祭
	26		27		28		29		30		31		1	
11月	2		3	文化の日	4		5		6		7		8	
	9		10		11		12		13		14		15	
	16		17		18		19		20		21		22	
	23	勤労感謝の日	24	振替休日	25	定期試験	26	定期試験	27	定期試験	28	定期試験	29	
12月	30		1		2		3		4		5		6	
	7		8	再試験	9	再試験	10	再試験	11	再試験	12	再試験	13	
	14		15		16		17		18		19		20	
	21		22		23		24		25		26		27	
	28		29	-	30	-	31	-	1	元旦	2	-	3	
1月	4		5		6		7		8		9		10	
	11		12	成人の日	13		14		15		16		17	
	18		19		20		21		22		23		24	
	25		26		27		28		29		30		31	
2月	1		2		3		4		5		6		7	
	8		9		10		11	建国記念の日	12		13		14	
	15		16		17		18		19		20		21	
	22		23	天皇誕生日	24		25		26		27		28	
3月	1		2		3		4		5		6		7	
	8		9		10		11		12		13		14	
	15		16		17	卒業式	18		19		20	春分の日	21	
	22		23		24		25		26		27		28	
	30		30		31									

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
		●		●		RP-2-BPT-03				
科目名	理学療法研究法				単位 認定者	網本 和		評価の方法	授業内課題 （発表会）	30 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		試験（筆記）	50 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	理学療法が科学として体系化され、より成熟したものになるためには、科学的根拠に基づいた理学療法の展開・実践が必要である。 理学療法研究法では、理学療法における科学の重要性について理解し、研究を実践するうえで必要な基本的知識と研究方法について学修する。									
到達目標	1. 理学療法研究の必要性を理解し、研究の意義や目的を説明できる。 2. 研究デザインや、基本的な研究の手順を説明できる。 3. 基本的な統計学を理解し、研究法に合わせた統計手法を選択できる。 4. 文献抄読を通して論理的思考力を身につけることができる。									
学修者への期待等	日進月歩する医療において、対象者に最適な理学療法を提供するためには、自らの知識技術が最新かつ安全なものであるかについて不断の検証が求められます。 そのためには浩瀚な先行研究の理解と、実践する理学療法効果の検証が必要です。 このような課題を解決するため「研究法」の基礎を修得して臨床に役立てていただきたいと思います。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	理学療法と研究、研究の意義・目的				「研究法」に関するテキストまたは文献を事前に学修する（60分程度）				網本 和 小松 佳路	
2	根拠に基づく理学療法（EBPT）及び研究テーマの設定 診療ガイドラインの活用、ナラティブに基づく実践								網本 和 小松 佳路	
3	研究デザインの基礎知識								網本 和 小松 佳路	
4	研究論文（文献）検索と論文の読み方								網本 和 小松 佳路	
5	対象の決め方・データのとり方 記述統計学①（平均値、中央値）								網本 和 小松 佳路	
6	対象の決め方・データのとり方 記述統計学②（標準偏差）								網本 和 小松 佳路	
7	研究データの解析 推計統計学①（パラメトリック検定）								網本 和 小松 佳路	
8	研究データの解析 推計統計学②（ノンパラメトリック検定）								網本 和 小松 佳路	
9	研究データの解析 推計統計学③（相関分析、回帰分析）								網本 和 小松 佳路	
10	医療統計（妥当性・信頼性、感度・特異度、尤度比）								網本 和 小松 佳路	
11	研究の実践例提示と討論								網本 和 小松 佳路	
12	文献発表会と討論①（基礎研究）								金谷 さとみ 小関 友記	
13	文献発表会と討論②（臨床研究）								佐々木 広人 荒牧 隼浩	
14	研究計画の立て方と研究倫理								網本 和 小松 佳路	
15	症例研究								網本 和 小松 佳路	
教科書	指定しない									
参考文献	『理学療法NAVI 臨床の疑問を研究に変える 臨床研究First Stage』網本和・他著、医学書院 『標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法』内山靖編、医学書院									
備考	P T A B 合同授業 文献発表会を授業内課題として行い、その場でフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

網本和：大学病院にて20年以上の臨床経験を有し、その間臨床研究について多数の学会発表、論文作成を行ってきた。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-MNP-01				
			●	●	●					
科目名	理学療法管理学				単位 認定者	金谷 さとみ		評価 の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	理学療法管理学では、理学療法士として仕事をするにあたり、対象者のリスクを把握することや危機管理能力が不可欠である。医療保険制度、介護保険制度を理解し、職場管理、組織運営や理学療法業務のマネジメントに必要な能力が培われるとともに、職業倫理を高めることができるよう学修する。また、臨床だけでなく、理学療法教育・研究・地域の領域における管理・マネジメント全般についても学修する。									
到達目標	1）臨床倫理原則（生命医療倫理等）について学び、医療に従事する者の基本姿勢を理解する。 2）医療機関等における組織体制、業務管理体制、チーム医療などについて説明できる。 3）医療の質向上に貢献できるよう、リスクマネジメント、クオリティアシユアランスの知識を身につけ、さらには自身のキャリア形成等の方法論について習得する。									
学修者への期待等	理学療法士が社会の中でどのような場所にいて何を期待されているかが理解でき、大学での日々の学びがいかに重要かを実感できる。事前に参考文献にも目を通すこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	臨床倫理原則（理学療法士の倫理やモラルとは）					事前資料を読んでまとめる（概ね30分）				
2	ホスピタルガバナンスとは					事前資料を読んでまとめる（概ね30分）				
3	医療機関、福祉施設における組織体制					事前資料を読んでまとめる（概ね30分）				
4	業務管理（急性期、回復期、在宅など）					事前資料を読んでまとめる（概ね30分）				
5	部署内、院内活動への貢献					事前資料を読んでまとめる（概ね30分）				
6	人事労務管理（人事計画と職員管理）					事前資料を読んでまとめる（概ね30分）				
7	人事労務管理（人事考課と面談、個人目標管理）					事前資料を読んでまとめる（概ね30分）				
8	人事労務管理（ストレスチェック、健康管理）					事前資料を読んでまとめる（概ね30分）				
9	教育システム（様々な人材育成手法）					事前資料を読んでまとめる（概ね30分）				
10	教育システム（医療専門職の継続教育について）					事前資料を読んでまとめる（概ね30分）				
11	社会保障制度の中の理学療法					事前資料を読んでまとめる（概ね30分）				
12	リスクマネジメントとクオリティアシユアランス					事前資料を読んでまとめる（概ね30分）				
13	チームにおけるコミュニケーション：グループワーク					事前に提示されたグループワーク課題を調べておく（概ね30分）				
14	チーム強化のために：グループワーク					事前に提示されたグループワーク課題を調べておく（概ね30分）				
15	経営マネジメントと管理者の資質					事前資料を読んでまとめる（概ね30分）				
教科書	資料配付									
参考文献	『リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック』金谷さとみ、高橋仁美編集　メディカルビュー社									
備考	授業内課題は13回目と14回目のグループワークの成果物とする。 課題に対しては後日、フィードバックを実施する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

医療機関、介護施設での管理者の経験が長く、行政にも従事していたことがあり、授業に生かせる。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
	●	●	●	●	●	RP-2-CLP-03				
科目名	臨床実習Ⅲ（総合実習）				単位 認定者	大和田 宏美		評価の 方法	実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3 年	開講時期	通年	単位数	7 単位			
						授業時間数	315 時間			
					授業形態	実習	授業回数		- 回	
授業の概要	臨床実習Ⅲ（総合実習）では、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の対象者に対して、対象者の他部門からの情報収集、検査・測定、検査・測定結果に対するアセスメント、問題点の抽出、治療目標の設定、治療プログラム立案、理学療法の実施、再評価までの一連の理学療法を実践することを目的とする。また、臨床実習の質的向上を図るために、「臨床実習前の評価」および「臨床実習後の評価」も実施し、臨床現場における実践を通して、一連の評価および治療も含めた基本的な理学療法技術の習得を図る。									
到達目標	1) 臨床実習指導者の助言・指導のもと、一連の基本的理学療法が実施できる。 2) 利用者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成できる。 3) 文献や指導によって知識・技術を増やすことができる。									
学修者への 期待等	これまで学修した理学療法学の知識および技術を利用者を通して実施できるように、主体的に取り組んでください。 ・実習施設では、実習生として責任ある行動をとること ・実習記録の作成・提出は期限を厳守すること ・実習施設における規則・心得を守ること									
授業計画						準備学修				
1. 臨床実習期間 学外実習：令和7年5月26日(月)～ 7月4日(金) 学内実習：令和7年5月中旬と7月上旬 2. 臨床実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションを実施する。 2) 臨床実習は臨床実習施設での診療参加型臨床実習を基本とし、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の利用者に対して理学療法評価を実施する。 3) 担当する症例に対して、検査・測定結果を解釈し、利用者の問題点の抽出、治療プログラムの立案、治療目標を設定する。 4) 治療プログラムを実施し、再評価を実践する。 5) 臨床実習記録を毎日、臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 6) 学内での実習セミナーに参加し発表の準備や実習報告書の作成などを学内教員より指導を受ける。 7) 以下の試験を実施する。 ①実習前OSCE ②実習前の臨床実習のための学力テスト ③実習後OSCE ④実習後の臨床実習のための学力テスト 3. 臨床実習Ⅲの総合判定（成績評価） 以下の成績評価項目をルーブリック評価表に基づき、判断する。なお、臨床実習において欠席が所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 実習課題： デイリーノート、ケース(症例)ノート、症例報告会、レジュメおよびレポートの作成、実習後OSCE、臨床実習のための学力テスト 実習状況： 臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。						臨床実習前に、感染対策について正しい知識と予防方法を身に付けてください。また、医療人として、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーションスキルを身に付けてください。担当する症例に関する医学的知識や理学療法についてしっかりと学修したうえで、臨床実習に臨んでください。				
教科書	『PT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター』相澤純也編集 羊土社 * 『ケースで学ぶ理学療法臨床思考 基礎編 第2版』有馬慶美編集 文光堂 * 『ケースで学ぶ理学療法臨床思考 実践編 第2版』有馬慶美編集 文光堂 『症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト』豊田輝 編 羊土社 * 『PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編』才藤栄一監修、金原出版 * 『PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編』才藤栄一監修 金原出版 『臨床実習の手引き』（配付資料） *1・2年次購入済み									
参考文献	症例に関連する領域の雑誌（理学療法ジャーナル、理学療法、クリニカル・リハビリテーション、総合リハビリテーションなど）									
備考	【担当教員】網本 和、原 和彦、伊橋 光二、金谷 さとみ、大和田 宏美、大橋 孝子、坂上 尚穂、小関 友記、伊藤 大亮、荒牧 隼浩、森永 雄、鈴木 裕治、佐々木 広人、小松 佳路									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング					
	●	●	●	●	●	RP-2-CLP-04					
科目名	臨床実習Ⅳ（総合実習）				単位 認定者	大和田 宏美		評価 の 方法	実習内容	100	%
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	通年	単位数	7 単位				
						授業時間数	315 時間				
				授業形態	実習	授業回数	- 回				
授業の概要	臨床実習Ⅳ(総合実習)では、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の対象者に対して、他部門からの情報収集、検査・測定、検査・測定結果に対するアセスメント、問題点の抽出、治療目標の設定、治療プログラム立案、理学療法の実施、再評価、治療プログラムの修正までの一連の理学療法を実践することを目的とする。また、臨床実習の質的向上を図るために、「臨床実習前の評価」および「臨床実習後の評価」も実施し、臨床現場における実践を通して、評価および治療も含めた基本的な理学療法技術の習得を図る。臨床実習を通して、臨床現場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持って行動することができるようになる。										
到達目標	1) 臨床実習指導者の指導のもと、一連の基本的理学療法が実施できる。 2) 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚を持った行動ができる。 3) 自己管理能力、生涯学習の態度を身につけることができる。										
学修者への 期待等	臨床実習では、これまで学修した理学療法学の知識および技術を利用者を通して実施できるように、主体的に取り組んでください。 ・実習施設におけるルールに従い、実習生として責任ある行動をとること ・臨床実習指導者からの指導を積極的に受けること										
授業計画						準備学修					
1. 臨床実習期間 学外実習：令和7年8月18日（月）～9月26日（金） 学内実習：令和7年8月中旬と9月下旬から10月上旬 2. 臨床実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションを実施する。 2) 臨床実習は臨床実習施設で実施し、診療参加型臨床実習を基本とし、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の利用者に対して理学療法評価を実施する。 3) 担当する症例に対して、検査・測定結果を解釈し、利用者の問題点の抽出、治療プログラムの立案、治療目標を設定する。 4) 治療プログラムを実施し、再評価を実践し治療プログラム修正を行う。 5) 院内の多職種連携を学修し、理学療法士の役割を理解する。 6) 臨床実習記録を毎日、臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 7) 学内での実習セミナーに参加し発表の準備や実習報告書の作成などを学内教員より指導を受ける。 8) 以下の試験を実施する。 ①実習前OSCE ②実習前の臨床実習のための学力テスト ③実習後OSCE ④実習後の臨床実習のための学力テスト 3. 臨床実習Ⅳの総合判定（成績評価） 以下の成績評価項目をルーブリック評価表に基づき、判断する。なお、臨床実習において欠席が所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 実習課題： デイリーノート、ケース(症例) ノート、症例報告会、レジュメおよびレポートの作成、実習後OSCE、臨床実習のための学力テスト 実習状況： 臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。						臨床実習前に、感染対策について正しい知識と予防方法を身に付けてください。また、医療人として、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーションスキルを身に付けてください。担当する症例に関する医学的知識や理学療法についてしっかりと学修したうえで、臨床実習に臨んでください。					
教科書	『PT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター』相澤純也編集 羊土社 * 『ケースで学ぶ理学療法臨床思考 基礎編 第2版』有馬慶美編集 文光堂 * 『ケースで学ぶ理学療法臨床思考 実践編 第2版』有馬慶美編集 文光堂 * 『症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト』豊田輝 編 羊土社 * 『PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編』才藤栄一監修、金原出版 * 『PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編』才藤栄一監修 金原出版 * 『臨床実習の手引き』（配付資料） *1・2年次、臨床実習Ⅲにて購入済み										
参考文献	症例に関連する領域の雑誌（理学療法ジャーナル、理学療法、クリニカル・リハビリテーション、総合リハビリテーションなど）										
備考	【担当教員】網本 和、原 和彦、伊橋 光二、金谷 さとみ、大和田 宏美、大橋 孝子、坂上 尚徳、小関 友記、伊藤 大亮、荒牧 隼浩、森永 雄、鈴木 裕治、佐々木 広人、小松 佳路										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-CLP-05				
	●	●	●	●	●					
科目名	地域理学療法実習				単位認定者	大和田 宏美		評価の方法	実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3 年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
						授業時間数	45 時間			
				授業形態	実習	授業回数	- 回			
授業の概要	地域理学療法実習では、医療保険制度や介護保険制度を理解し、理学療法士の役割と関連専門職の役割について理解する。また、通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションなどを利用している対象者の生活環境やその支援方法などについて学修する。									
到達目標	1) 臨床実習指導者の指導のもと、地域理学療法について理解する。 2) 地域での理学療法士の役割と責任および関連専門職の役割について理解し、その一員としての自覚を持った行動ができる。 3) 自己管理能力、生涯学習の態度を身につけることができる。									
学修者への期待等	急性期・回復期と一連のリハビリテーションを実施していったその先に、在宅医療や地域でのリハビリテーションがあります。理学療法士が地域に果たす役割や利用者の生活に密着した場面で利用者の状態に合わせた指導や適切な支援ができるようしっかりと学んでください。									
授業計画						準備学修				
1. 実習期間 学外実習【令和7年7月21日（月）～ 8月1日（金）のうち4日間】 学内実習（実習オリエンテーション、発表会等）は別日程で実施する。 2. 実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションを実施する。 2) 臨床実習は臨床実習施設で実施し、臨床実習指導者の指導のもと、地域リハビリテーションの流れを学び、利用者のおかれている状況を理解し、適切な理学療法を提供できるようになる。 3) 毎日のデイリーノート（臨床実習記録）とケースノート（利用者に関する記録）を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 4) 学内での実習セミナーに参加し、実習で学んできたことの成果発表やレポート課題などを学内教員より指導を受けること。 3. 地域理学療法実習の総合判定（成績評価） 以下の成績評価項目について、臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。なお、臨床実習において欠席が所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 ・臨床実習評価 実習態度、デイリーノート、ケースノート、成果発表						臨床実習前に、感染対策について正しい知識と予防方法を身に付けてください。また、医療人として、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーションスキルを身に付けてください。地域理学療法に関する文献等をしっかりと読んでおいてください。				
教科書	『PT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター』相澤純也編集 羊土社 * 『ケースで学ぶ理学療法臨床思考 基礎編 第2版』有馬慶美編集 文光堂 * 『ケースで学ぶ理学療法臨床思考 実践編 第2版』有馬慶美編集 文光堂 * 『症例動画でわかる理学療法臨床推論』羊土社 * 『臨床実習の手引き』（配付資料） *1・2年次、臨床実習Ⅲにて購入済み									
参考文献	地域リハビリテーション領域の雑誌（理学療法ジャーナル、理学療法、臨床リハビリテーション、総合リハビリテーションなど）									
備考	【担当教員】理学療法学専攻教員：網本和、原和彦、伊橋光二、金谷さとみ、大和田宏美、大橋孝子、坂上尚穂、小関友記、伊藤大亮、荒牧隼浩、森永雄、鈴木裕治、佐々木広人、小松佳路									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-CBP-02					
		●	●	●	●						
科目名	地域理学療法学演習				単位認定者	森永 雄		評価の方法	授業内課題 (レポート①)	40	%
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題 (レポート②)	50	%
						授業時間数	30 時間		受講態度	10	%
					授業形態	演習	授業回数		15 回		
授業の概要	地域理学療法学で学修した知識を基に、在宅高齢者や障害者に対する具体的な理学療法士の支援について学修する。本講義では、事例を通して、相談支援、訪問理学療法・通所サービス、住宅改修、車椅子や日常生活用具等の福祉用具などについての知識を深め、地域における理学療法士としての実践力を養う。また、介護予防、認知症予防や転倒予防などの運動および各評価についての理論を学び実践する。										
到達目標	【実践力】シミュレーションを通して、地域理学療法の企画力と集団に対する実践力を高める。 【人間関係力】他者の考えや対象者の立場を理解し、課題解決に向けた協調的な支援行動を図れる。 チームで生じている対立に気づき、自ら調整するよう働きかけることができる。 【生涯学習力】考えを「引き出す」から「創り出す」学習の一步を踏み出すことができる。 自助・互助の果たす役割を自覚し、課題解決に向けて能動的な学習行動を図れる。 【地域理解力】現場体験談を傾聴し、実社会の問題を推し量る能力を高めることができる。										
学修者への期待等	・実技実演では動きやすい格好を心がけ、チーム活動では活発な討論ができるよう整えてください。 ・現場体験談を傾聴する際は、授業計画テーマの事前学修（予習）に努めてください。 ・本選発表では、聴講者の興味関心が高まるような創意工夫を期待します。										
回	授業計画					準備学修			担当		
1	地域高齢者の理解と評価・リスクマネジメント 【反転授業、クラス合同】					UNIPAに掲載された資料を確認すること (60分程度)			森永 雄 金谷 さとみ		
2	地域理学療法学ガイドラインと住環境、まちづくり 【反転授業、クラス合同】								森永 雄 金谷 さとみ		
3	学生による介護予防教室の集団測定 【フィールド学習、クラス合同】								森永 雄 金谷 さとみ		
4	学生による介護予防教室の解析 【フィールド学習、クラス合同】								森永 雄 金谷 さとみ		
5	学生による介護予防教室の多面的プログラムの実践 【フィールド学習、グループワーク】								森永 雄 金谷 さとみ		
6	現場体験談1 国際支援（青年海外協力隊） 【ICTを活用した双方向型授業、クラス合同】					UNIPAに掲載された資料を確認すること (30分程度)			市村 駿介 森永 雄		
7	現場体験談2 地域・小児・理学療法士 【ICTを活用した双方向型授業、クラス合同】								小島 賢司 森永 雄 金谷 さとみ		
8	現場体験談3 訪問リハと理学療法士【クラス合同】								荒牧 隼浩 金谷 さとみ		
9	現場体験談4 地域性に基づく理学療法と取り組み 【ICTを活用した双方向型授業、クラス合同】								館石 安由 森永 雄		
10	現場体験談5 地域就労者の労働災害と健康増進 【クラス合同】								坂上 尚穂 金谷 さとみ 森永 雄		
11	現場体験談6 地域スポーツ活動の支援【クラス合同】								佐々木 広人 金谷 さとみ 森永 雄		
12	現場体験談7 地域高齢者介護予防・健康増進・災害 【クラス合同】								金谷 さとみ		
13	発表準備 【ディスカッション、グループワーク、クラス合同】					発表の準備を行うこと (予習復習あわせて240分程度)			森永 雄 金谷 さとみ		
14	予選発表（校内発表） 【学生によるプレゼンテーション】								森永 雄 金谷 さとみ		
15	本選発表（外部聴衆あり） 【学生によるプレゼンテーション、クラス合同】								森永 雄 金谷 さとみ		
教科書	UNIPAに掲載された資料確認										
参考文献	UNIPAに掲載された資料確認										
備考	【特性】AB合同授業(1-4、6-13回、15回)、AB別2クラス(5回、14回)、体験談における非常勤講師は遠隔講義(Zoom利用)予定、ICT利活用教育（UNIPA、Google formなど）、AL（グループワーク、発表、ディスカッション、ディベートなど） 【評価】「授業内課題（レポート①）」は、3-5回授業内容を対象とし、独自のルーブリックを用いて採点を行う。学生がUNIPAの科目コース内に指定した提出先Boxに提出する。後日、提出先Boxにあるフィードバック機能を用いて、ワンポイントアドバイスの機会を設ける。「授業内課題（レポート②）」は、13-15回授業内容を対象とし、上記同様に取り扱う。「受講態度」は、出席数と現場体験談受講後のリフレクション数と質を指標とする。 【備考】※1…地域課題は、協力の得られた仙台市太白区中央市民センターと同センター企画に参加した地域住民の意見を参考にした。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

森永雄：地域在住高齢者を対象とした臨床経験・研究あり（フレイル、サルコペニア、生活活動量など）。また、PT協会のフレイル対策推進マネジャー、介護予防推進・地域ケア会議推進リーダーの認定あり。この経験を基に、講義を担当する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング					
		●	●	●	●	RP-2-CBP-03					
科目名	保健医療福祉連携論					単位 認定者	須藤 あゆみ		評価の 方法	授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3 年	開講時期	後期	単位数	1 単位				
	O T	必修	3 年			授業時間数	30 時間				
					授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	包括的なリハビリテーションを行うためには、多くの医療専門職との連携が不可欠である。さらに、医療専門職だけでなく、保健・医療・福祉領域の関連職種との連携が重要である。 本講義では、多くの関連専門職とその役割を知り、専門職間の連携の重要性について理解する。										
到達目標	1. 他の関連専門職の専門性を理解できるようになる。 2. 他の専門職と協働し、同じ目標を共有することで自らが目指している職種の専門性を再確認する。										
学修者への期待等	本講義はグループ学修中心の講義である。グループ学修においては積極的な意見交換を期待しています。また、療法士免許取得後も、実際の現場にて、率先して多職種連携を行えるようになることを期待しています。										
回	授業計画					準備学修			担当		
1	多職種連携とは					配付資料の復習をすること。（30分程度）			齋藤 佑樹		
2	他職種の専門性を知る[1]看護師					授業の内容をまとめる。（30分程度）			他学科教員 齋藤 佑樹 外里 富佐江 酒井 弘美 須藤 あゆみ 戸田 祐子 熊谷竜太 高橋 慧		
3	他職種の専門性を知る[2]言語聴覚士					授業の内容をまとめる。（30分程度）					
4	他職種の専門性を知る[3]栄養士					授業の内容をまとめる。（30分程度）					
5	他職種の専門性を知る[4]歯科衛生士					授業の内容をまとめる。（30分程度）					
6	地域ケア会議の役割について					授業の内容をまとめる。（30分程度）			齋藤 佑樹 外里 富佐江 酒井 弘美 須藤 あゆみ 戸田 祐子 熊谷竜太 高橋 慧		
7	医療と教育の連携について					授業の内容をまとめる。（30分程度）					
8	連携する際の工夫を考える[1]グループワーク					発表資料の作成準備をする。（30分程度）					
9	連携する際の工夫を考える[2]グループワーク・発表準備										
10	連携する際の工夫を考える[3]発表										
11	事例検討 [1] 事例提示					発表資料の作成準備をする。（30分程度）					
12	事例検討 [2] グループワーク										
13	事例検討 [3] 発表準備 グループワーク										
14	事例検討 [4] 発表1										
15	事例検討 [5] 発表2										
教科書	配付資料										
参考文献	『信念対立解消アプローチ入門―チーム医療・多職種連携の可能性をひらく』京極真、中央法規										
備考	P T・O T合同授業 課題のフィードバックは授業内に適宜行います。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

須藤あゆみ：精神科病院に勤務し精神障害領域の作業療法に携わってきた。その臨床経験を活かし、連携の重要性や要点について講義を行う。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング RP-3-SPS-01				
	●	●	●	●	●					
科目名	専門支持科目特別演習				単位 認定者	大和田 宏美		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3 年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	本講義では、卒業後の活動における理学療法士・作業療法士として必要な総合的能力を統合することを目的とする。とくに、基礎医学・臨床医学分野に関して3年間で学んだ基礎的な知識および技術を整理し、専門職として活躍できるよう学修する。									
到達目標	1. 解剖・生理・運動学に関して知識を整理し、理解を深める。 2. 臨床医学分野に関して3年間で学んだ知識と技術を整理し、臨床応用ができるようになる。 3. 臨床医学の知識と技術を修得し、理学療法・作業療法を実践的に展開できるようになる。 4. 専門基礎分野における国家試験の問題を解くことができる。									
学修者への期待等	1. 授業で使用する資料に従って予習すること。 2. 授業後、当該分野の復習を必ず行い、授業の終わったその日のうちに学修を行うこと。 3. 授業後、当該分野の国家試験問題を解き、学修を進めること。 4. 授業で理解できなかったところは、自分で調べ、解決しなければ質問するなど、絶対そのままにしないこと。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	解剖学総論				事前に、国試の達人 運動解剖生理学編と臨床医学編、ヒント式トレーニングの各領域の問題を解いておくこと。(60分程度)				大和田 宏美	
2	運動機能学1：上肢								小松 佳路	
3	運動機能学2：下肢								小松 佳路	
4	運動機能学3：体幹・顔面								小松 佳路	
5	運動機能学4：姿勢・歩行								小松 佳路	
6	解剖生理学1：呼吸器系								荒牧 隼浩	
7	解剖生理学2：循環器系								伊藤 大亮	
8	解剖生理学3：腎臓・泌尿器系								伊藤 大亮	
9	解剖生理学4：消化器系								伊藤 大亮	
10	生理学1：神経、脳、脊髄								小松 佳路	
11	生理学2：体性感覚、運動、反射								小松 佳路	
12	生理学3：特殊感覚、自律神経								小松 佳路	
13	生理学4：細胞、内臓								小松 佳路	
14	整形外科学1：整形外科一般								小松 佳路	
15	整形外科学2：整形外科骨折								小松 佳路	

回	授業計画	準備学修	担当
16	整形外科3：変形性関節症	事前に、国試の達人 運動解剖生理学編と臨床医学編、ヒント式トレーニングの各領域の問題を解いておくこと。（60分程度）	小松 佳路
17	神経内科学1 脳血管障害、高次脳機能障害		平山 和美
18	神経内科学2 末梢神経障害、筋疾患、変性疾患他		平山 和美
19	リハビリテーション医学（臨床リハ医学）		佐直 信彦
20	内科学1：呼吸器疾患		荒牧 隼浩
21	内科学2：循環器系疾患		伊藤 大亮
22	内科学3：腎臓・泌尿器・消化器系疾患		伊藤 大亮
23	病理学1：感染、炎症、腫瘍		熊谷 竜太
24	病理学2：病理所見、病因		熊谷 竜太
25	人間発達学		外里 富佐江
26	臨床心理学1 防衛機制、学習理論		熊谷 竜太
27	臨床心理学2 心理検査・心理療法		熊谷 竜太
28	精神医学1 精神症状		須藤 あゆみ
29	精神医学2 統合失調症他		須藤 あゆみ
30	精神医学3 認知症	須藤 あゆみ	
教科書	『PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編改訂第3版』ヒントレ研究所 編 南江堂 『PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 臨床医学編改訂第3版』ヒントレ研究所 編 南江堂 『クエスチョン・バンク 理学療法士国家試験問題解説 2025 共通問題』医療情報科学研究所 編 メディックメディア 『系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能①』坂井 建雄 医学書院* *1年次購入済み		
参考文献	『国試の達人PTシリーズ2023年 運動解剖生理学編 第28版』アイベック 『国試の達人PTシリーズ2024年 臨床医学編 第25版』アイベック 後日指定する		
備考	1回、6～16回、20～22回：P T A B 合同授業 2～5回、17～19回、23～30回：P T ・ O T 合同授業		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング RP-3-SPS-02				
	●	●	●	●	●					
科目名	専門展開科目特別演習				単位 認定者	大和田 宏美		評価 の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3 年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	本講義では、卒業後の活動における理学療法士として必要な総合的能力を統合することを目的とする。とくに、理学療法学の専門分野に関して3年間で学んだ基礎的な知識および技術を整理し、専門職として活躍できるよう学修する。									
到達目標	1. 理学療法専門領域の知識と技術を用いて、理学療法を実践的に展開できるようになる。 2. 専門基礎、臨床医学分野に関して知識と技術を整理し、専門分野における臨床応用ができるようになる。 3. 専門分野の知識と技術を修得し、理学療法・作業療法を実践的に展開できるようになる。 4. 専門分野における国家試験の問題を解くことができる。									
学修者への期待等	1. 授業で使用する資料に従って予習すること。 2. 授業後、当該分野の復習を必ず行い、授業の終わったその日のうちに学修を行うこと。 3. 授業後、当該分野の国家試験問題を解き、学修を進めること。 4. 授業で理解できなかったところは、自分で調べ、解決しなければ質問するなど、絶対そのままにしないこと。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	障害別理学療法総論				事前に、国試の達人 理学療法編、必修ポイントの障害別PT治療学、基礎PT学各領域の問題を解いておくこと。(60分程度)				大和田 宏美	
2	理学療法評価学1：関節可動域測定の基礎								佐々木 広人	
3	理学療法評価学2：関節可動域測定の実際（実地問題）								佐々木 広人	
4	理学療法評価学3：MMTの基礎								佐々木 広人	
5	理学療法評価学4：MMTの実際（実地問題）								佐々木 広人	
6	理学療法評価学5：疾患別評価法								佐々木 広人	
7	骨関節障害1：上肢の骨関節障害								小松 佳路	
8	骨関節障害2：下肢の骨関節障害								小松 佳路	
9	骨関節障害3：体幹の骨関節障害								小松 佳路	
10	骨関節障害4：RA・骨折								小松 佳路	
11	内部障害学1：呼吸器障害の理学療法								荒牧 隼浩	
12	内部障害学2：呼吸器障害の理学療法								荒牧 隼浩	
13	内部障害学3：循環器障害の理学療法								伊藤 大亮	
14	内部障害学4：循環器障害（心電図の基本）								伊藤 大亮	
15	内部障害学5：循環器障害（不整脈）								伊藤 大亮	

回	授業計画	準備学修	担当
16	内部障害学6：代謝障害の理学療法	事前に、国試の達人 理学療法編、必修ポイントの障害別PT治療学、基礎PT学各領域の問題を解いておくこと。（60分程度）	伊藤 大亮
17	中枢神経障害1（脳卒中）：脳画像		大和田 宏美
18	中枢神経障害2（脳卒中）：片麻痺の理学療法		大和田 宏美
19	中枢神経障害3（脳卒中）：高次脳機能障害		大和田 宏美
20	中枢神経障害4（脊髄損傷）		大和田 宏美
21	中枢神経障害5（神経筋疾患）：PA・SCD・ALS		大和田 宏美
22	中枢神経障害6（神経筋疾患）：MS・GBS・MG		大和田 宏美
23	小児理学療法学1 脳性麻痺 知的障害について		大橋 孝子
24	小児理学療法学2 筋ジストロフィー症 小児整形外科疾患について		大橋 孝子
25	義肢装具学1：上肢の装具学		鈴木 裕治
26	義肢装具学2：下肢の装具学		鈴木 裕治
27	義肢装具学3：義肢学		鈴木 裕治
28	物理療法学1：物理療法の基礎		鈴木 裕治
29	物理療法学2：温熱療法・寒冷療法・電気光線療法		鈴木 裕治
30	法律・制度・地域理学療法学(介護予防も含む)	大橋 孝子	
教科書	『クエスチョン・バンク 理学療法士国家試験問題解説 2025 専門問題』医療情報科学研究所 編 メディックメディア		
参考文献	『国試の達人PTシリーズ2024年 理学療法編 第24版』アイベック 後日指定する		
備考	P T A B 合同授業		

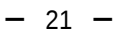
※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

リハビリテーション学科 作業療法学専攻 3年生

- カリキュラムマップ
- カリキュラムツリー
- 年間予定表
- シラバス



2025年度 リハビリテーション学科 作業療法学専攻3年生 年間予定表

前期

	日		月		火		水		木		金		土	
4月	30		31		1		2		3	入学式	4		5	
	6		7		8		9		10	健康診断	11		12	
	13		14		15		16		17		18		19	
	20		21		22		23		24		25		26	
	27		28		29	昭和の日	30		1		2		3	憲法記念日
5月	4	みどりの日	5	こどもの日	6	振替休日	7		8		9		10	
	11		12		13		14		15		16		17	
	18		19	臨床実習Ⅲ	20	臨床実習Ⅲ	21	臨床実習Ⅲ	22	臨床実習Ⅲ	23	臨床実習Ⅲ	24	
	25		26	臨床実習Ⅲ	27	臨床実習Ⅲ	28	臨床実習Ⅲ	29	臨床実習Ⅲ	30	臨床実習Ⅲ	31	
6月	1		2	臨床実習Ⅲ	3	臨床実習Ⅲ	4	臨床実習Ⅲ	5	臨床実習Ⅲ	6	臨床実習Ⅲ	7	
	8		9	臨床実習Ⅲ	10	臨床実習Ⅲ	11	臨床実習Ⅲ	12	臨床実習Ⅲ	13	臨床実習Ⅲ	14	
	15		16	臨床実習Ⅲ	17	臨床実習Ⅲ	18	臨床実習Ⅲ	19	臨床実習Ⅲ	20	臨床実習Ⅲ	21	
	22		23	臨床実習Ⅲ	24	臨床実習Ⅲ	25	臨床実習Ⅲ	26	臨床実習Ⅲ	27	臨床実習Ⅲ	28	
7月	29		30	臨床実習Ⅲ	1	臨床実習Ⅲ	2	臨床実習Ⅲ	3	臨床実習Ⅲ	4	臨床実習Ⅲ	5	
	6		7	臨床実習Ⅲ	8	臨床実習Ⅲ	9	臨床実習Ⅲ	10	臨床実習Ⅲ	11	臨床実習Ⅲ	12	
	13		14		15		16		17		18		19	
	20		21	海の日	22		23		24		25		26	
	27		28	地域実習	29	地域実習	30	地域実習	31	地域実習	1	地域実習	2	
8月	3		4		5		6		7		8		9	
	10		11	山の日	12		13		14		15		16	
	17		18		19		20		21		22		23	
	24		25	臨床実習Ⅳ	26	臨床実習Ⅳ	27	臨床実習Ⅳ	28	臨床実習Ⅳ	29	臨床実習Ⅳ	30	
9月	30		1	臨床実習Ⅳ	2	臨床実習Ⅳ	3	臨床実習Ⅳ	4	臨床実習Ⅳ	5	臨床実習Ⅳ	6	
	7		8	臨床実習Ⅳ	9	臨床実習Ⅳ	10	臨床実習Ⅳ	11	臨床実習Ⅳ	12	臨床実習Ⅳ	13	
	14		15	敬老の日	16	臨床実習Ⅳ	17	臨床実習Ⅳ	18	臨床実習Ⅳ	19	臨床実習Ⅳ	20	
	21		22	臨床実習Ⅳ	23	秋分の日	24	臨床実習Ⅳ	25	臨床実習Ⅳ	26	臨床実習Ⅳ	27	
	28		29	臨床実習Ⅳ	30	臨床実習Ⅳ	1	臨床実習Ⅳ	2	臨床実習Ⅳ	3	臨床実習Ⅳ	4	

2025年度 リハビリテーション学科 作業療法学専攻3年生 年間予定表

後期

	日		月		火		水		木		金		土	
10月	28		29	臨床実習Ⅳ	30	臨床実習Ⅳ	1	臨床実習Ⅳ	2	臨床実習Ⅳ	3	臨床実習Ⅳ	4	
	5		6	臨床実習Ⅳ	7	臨床実習Ⅳ	8	臨床実習Ⅳ	9	臨床実習Ⅳ	10	臨床実習Ⅳ	11	
	12		13	スポーツの日	14	臨床実習Ⅳ	15	臨床実習Ⅳ	16	臨床実習Ⅳ	17	臨床実習Ⅳ	18	
	19		20		21		22		23		24		25	せいよう祭
	26		27		28		29		30		31		1	
11月	2		3	文化の日	4		5		6		7		8	
	9		10		11		12		13		14		15	
	16		17		18		19		20		21		22	
	23	勤労感謝の日	24	振替休日	25		26		27		28		29	
12月	30		1		2		3		4		5		6	
	7		8		9		10		11		12		13	
	14		15		16		17		18		19		20	
	21		22		23		24		25		26		27	
	28		29	-	30	-	31	-	1	元旦	2	-	3	
1月	4		5		6		7		8		9		10	
	11		12	成人の日	13		14		15		16		17	
	18		19		20		21		22		23		24	
	25		26		27		28		29		30		31	
2月	1		2		3		4		5		6		7	
	8		9		10		11	建国記念の日	12		13		14	
	15		16		17		18		19		20		21	
	22		23	天皇誕生日	24		25		26		27		28	
3月	1		2		3		4		5		6		7	
	8		9		10		11		12		13		14	
	15		16		17	卒業式	18		19		20	春分の日	21	
	22		23		24		25		26		27		28	
	30		30		31									

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング RO-2-MNO-02				
			●	●	●					
科目名	作業療法管理学演習				単位 認定者	熊谷 竜太		評価 の方法	授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
						授業時間数	20 時間			
				授業形態	演習	授業回数	10 回			
授業の概要	作業療法管理学の知識をもとに、専門職職業人としての意識を高めるとともに、作業療法教育の現状を知り、今後について考査する。 また、生涯にわたり自己学習を進めるための内省力を養い、自己管理能力の向上を図る。									
到達目標	社会人・職業人として、自分自身のマネジメント、所属組織のマネジメント、チームのマネジメントに必要な知識について学び、要点を説明することができる。									
学修者への期待等	社会人として自己実現を果たすために不可欠な知識を得ることができる科目です。主体的に課題に取り組むことを期待します。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	チームマネジメント①(講義・グループワーク) ～相手の個性を的確に把握する～					UNIPAの配付資料を事前に確認 (30分程度)			熊谷竜太	
2	チームマネジメント②(講義・グループワーク) ～チームとしての目標設定～								熊谷竜太	
3	チームマネジメント③(講義・グループワーク) ～チームとしてのコミュニケーション～								熊谷竜太	
4	組織マネジメント①(講義・グループワーク) ～組織としての成果～								熊谷竜太	
5	組織マネジメント②(講義・グループワーク) ～組織における目標～								熊谷竜太	
6	組織マネジメント③(講義・グループワーク) ～組織におけるコミュニケーション～								熊谷竜太	
7	起業に関するマネジメント① (講義・グループワーク) ～起業とは～								山田裕子	
8	起業に関するマネジメント② (講義・グループワーク) ～起業のための枠組み～								山田裕子	
9	起業に関するマネジメント③ (講義・グループワーク) ～ビジネスプランを考える～								山田裕子	
10	起業に関するマネジメント④ (講義・グループワーク) ～まとめ～								山田裕子	
教科書	『作業で結ぶマネジメント 作業療法士のための自分づくり・仲間づくり・組織づくり』澤田辰徳編、医学書院* *2年次購入済み									
参考文献	適宜紹介します。									
備考	授業内課題のフィードバックは適宜行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

熊谷竜太：宮城県作業療法士会に所属し、部や委員会の主担当理事やリーダーを担ってきた。これまでの経験を活かしながら、セルフ・チーム・組織のマネジメントについて講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-TOT-16				
	●	●	●	●						
科目名	作業療法総合演習				単位認定者	熊谷 竜太		評価の方法	授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	相互学習法を通してチームアプローチの必要性を認識するとともにリーダーシップ力の向上を目指す。 また、問題解決能力を高めるとともに、計画性や企画力、創造性、表現能力などを学修し、専門職として備えるべき要素の修得と自己学習能力の向上を図る。									
到達目標	1. 自己の修得状況を客観的に評価できる。 2. 自己に効果的な学修方法を説明できる。 3. 解決すべき課題（問）の明確化、解決方法の選択、解決行動ができる。 4. リーダーとして他者を牽引できる。									
学修者への期待等	グループ学修を中心に学びを深めていきます。学修に対する姿勢はグループ全体の意識や雰囲気に影響しますので主体的な参加を期待します。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	オリエンテーション 臨床実習Ⅲ・Ⅳ、地域作業療法実習、国家試験の概要				シラバスを確認すること（概ね15分）				外里 富佐江 須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
2	昨年度の振り返り（基礎三科目を中心に）				昨年度の学修内容を確認しておくこと（概ね60分）					
3	臨床現場で求められる実践力を学ぶ グループワーク ～事例①の評価計画立案～				各自必要な教科書、物品の準備をすること。（概ね30分）					
4	臨床現場で求められる実践力を学ぶ グループワーク ～事例①のクリニカルリーズニング～				各自必要な教科書、物品の準備をすること。（概ね30分）					
5	臨床現場で求められる実践力を学ぶ 実技 ～事例①に対する評価の実践～				各自必要な教科書、物品の準備をすること。（概ね30分）					
6	臨床現場で求められる実践力を学ぶ 実技 ～事例①に対する支援の実践～				各自必要な教科書、物品の準備をすること。（概ね30分）					
7	臨床現場で求められる実践力を学ぶ グループワーク ～事例②の評価計画立案～				各自必要な教科書、物品の準備をすること。（概ね30分）					
8	臨床現場で求められる実践力を学ぶ グループワーク ～事例②のクリニカルリーズニング～				各自必要な教科書、物品の準備をすること。（概ね30分）					
9	臨床現場で求められる実践力を学ぶ 実技 ～事例②に対する評価の実践～				各自必要な教科書、物品の準備をすること。（概ね30分）					
10	臨床現場で求められる実践力を学ぶ 実技 ～事例②に対する支援の実践～				各自必要な教科書、物品の準備をすること。（概ね30分）					
11	国家試験を知る：グループ学修①例題について調べ解説を作成する				課題実施に必要な教科書を準備し読んで来ること（概ね30分）					
12	国家試験を知る：グループ学修②例題について調べ解説を作成する				第11回での課題を実施すること（概ね30分）					
13	国家試験を知る：グループ学修③例題について調べ解説を作成する				第11回での課題を実施すること（概ね30分）					
14	国家試験を知る：グループ学修④例題について調べ解説を作成する				第11回での課題を実施すること（概ね30分）					
15	まとめ				これまで学んだことの復習をしておくこと（概ね60分）					
教科書	なし									
参考文献	適宜紹介します									
備考	配付資料がある場合は、前日までにUNIPAに投稿します。印刷・PC上での閲覧どちらでも構いません。授業内課題のフィードバックは、当該回の授業内に行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-TOT-17				
		●	●	●						
科目名	臨床作業療法演習Ⅲ				単位 認定者	須藤 あゆみ		評価 の方法	授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	○ T	必修	3 年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	臨床実習で経験した事例を取り上げ、問題の分析から治療介入について、各科目で学んだ知識・技術を統合し考える。作業療法の治療理論に基づいた介入を学び、適切な介入の方法を修得することで作業療法を総合的にする。									
到達目標	1. 各領域の主要疾患の評価に必要な知識を用い、評価計画を立案することができるようになる。 2. 各領域の主要疾患において、根拠のある効果的な治療プログラムを立案することができるようになる。 3. 領域、疾患、病期に適切なリスク管理や注意事項を挙げることができるようになる。 4. 適切な技術で評価を実施することができるようになる。									
学修者への 期待等	演習であるため、積極的に参加してほしい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	クリニカルリーズニングの概念と流れ				作業療法学概論 P148-150「作業療法における思考過程と態度」を読む。（30分程度）			齋藤 佑樹 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
2	身体障害①：障害像				前回の復習を十分行い授業に臨むこと。（30分程度）			齋藤 佑樹 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
3	身体障害②：評価治療の考え方				前回の復習を十分行い授業に臨むこと。（30分程度）			齋藤 佑樹 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
4	身体障害③：評価計画立案				前回の復習を十分行い授業に臨むこと。（30分程度）			齋藤 佑樹 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
5	身体障害④：治療計画立案障害像 評価治療の考え方				前回の復習を十分行い授業に臨むこと。（30分程度）			齋藤 佑樹 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
6	身体障害⑤：高齢期障害：障害像				身体障害高齢期の病態を復習しておくこと（30分程度）			高橋 慧 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
7	身体障害⑥：高齢期障害：評価治療の考え方				前回の復習を十分行い授業に臨むこと。（30分程度）			高橋 慧 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
8	身体障害⑦：高齢期障害：評価計画立案				前回の復習を十分行い授業に臨むこと。（30分程度）			高橋 慧 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
9	精神障害①：症状と障害				各疾患の回復過程を復習しておくこと。（30分程度）			須藤 あゆみ 酒井 弘美		
10	精神障害②：評価・治療の考え方				各疾患の回復過程を復習しておくこと。（30分程度）			須藤 あゆみ 酒井 弘美		
11	精神障害③：症例の評価計画立案				統合失調症の病態を復習しておくこと（30分程度）			熊谷 竜太 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
12	精神障害④：症例の治療計画立案				前回の復習を行い授業に臨むこと。（30分程度）			熊谷 竜太 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
13	身体障害⑧：急性期の治療の実際				身体障害急性期の病態を復習しておくこと。（30分程度）			高橋 慧 道又 顕 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
14	身体障害⑨：回復期の治療の実際				身体障害回復期の病態を復習しておくこと。（30分程度）			高橋 慧 荒井 隆徳 酒井 弘美 須藤 あゆみ		
15	精神障害⑤：治療の実際				実際の治療場面をイメージできるように疾患の病態や評価、治療について復習しておくこと。（30分程度）					
教科書	1・2年次で購入した教科書を使用します。事前に連絡します。									
参考文献	特になし									
備考	課題のフィードバックは授業内に適宜行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

須藤あゆみ：精神科病院に勤務し精神障害領域の作業療法に携わってきた。その臨床経験を活かし、一連の作業療法過程について講義する。
 高橋慧：地域の通所施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、高齢者に対する評価や介入の実際について講義を行う。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
	●	●	●	●	●	RO-2-CLP-03				
科目名	臨床実習Ⅲ（総合実習）				単位 認定者	齋藤 佑樹		評価 の 方法	実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	通年	単位数	7 単位			
						授業時間数	315 時間			
				授業形態	実習	授業回数	- 回			
授業の概要	臨床実習Ⅲ（総合実習）では、診療参加型によって作業療法技能の向上を目指す。臨床実習指導者の指導のもと、対象者に対して、評価の実施から評価結果に対するアセスメント、問題点の抽出、治療目標の設定と治療プログラム立案、治療の実施から効果判定までの臨床過程を経験する。また、臨床的思考能力向上のために自発的に行動し、作業療法士としての自覚を高める。実習の前後には、学内で客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、知識、技能、態度等を総合的に評価するとともに、実習後セミナーを通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。									
到達目標	対象者に対して必要な評価を実施し、評価結果から、問題点の抽出、治療目標の設定と治療プログラムの立案ができる。また、立案したプログラムを実施し、再評価を通して効果判定ができる。									
学修者への 期待等	臨床実習にあたっての意義や目的は実習の手引き書の他に臨床実習ガイダンスや各授業においても示す。臨床実習ではこれまで学修した知識及び技術を総動員して主体的に臨むこと。また、記録の作成、提出期限の厳守や施設における規則・心得を守り、実習生として責任ある行動を取ることを。									
授業計画								準備学修		
1. 実習期間 臨床実習：令和7年5月19日（月）～7月11日（金） 2. 実習目的・目標 (1) 臨床実習施設の特性や施設における作業療法（士）の役割と機能を学ぶ。 1) 地域における実習施設の役割を述べることができる。 2) 臨床実習施設における作業療法（士）の役割と機能を述べることができる。 3) 臨床実習施設の特性を踏まえた作業療法（士）の役割を遂行することができる。 (2) 今まで学んだ作業療法の知識と技術・技能および態度を臨床場面に応用し、評価から治療までの基本を臨床実習指導者のもとで実践する。 1) 利用者の全体像把握のために必要な評価計画を立てることができる。 評価から治療までの基本を臨床実習指導者のもとで実践する。 2) 選択した評価手段（検査・測定等）を適切に実施できる。 3) 検査・測定等の結果と利用者の生活を結び付けた解釈や判断ができる。 4) 利用者の全体像をまとめるために必要な情報を選択できる。 5) 選択した情報をもとに全体像をまとめることができる。 6) まとめた全体像から短期・長期目標を設定できる。 7) 短期・長期目標に基づいた治療計画を立案することができる。 8) 作業療法治療・指導を行うことができる。 9) 再評価・最終評価を行うことができる。 10) 利用者を実施した作業療法の一連の流れをまとめることができる。 (3) リハビリテーション・チームの一員としての役割を理解し、協調性のある態度を身につける。 1) リハビリテーション・チームを成立させるために必要な機能を説明できる。 2) リハビリテーション・チームの一員としての作業療法（士）の役割を説明できる。 3) リハビリテーション・チームにおける他職種の役割を説明できる。 4) リハビリテーション・チームの一員として、コミュニケーションを図ることができる。 5) 他職種と連携を取り、チームアプローチを実践できる。 (4) 作業療法士としての基本的な態度を修得し、専門職としての資質の向上・充実を図る。 1) 自ら計画を立て、自己の責任において積極的に課題を遂行することができる。 2) 必要に応じ、自ら進んで臨床指導者や他職員に報告、連絡、相談を行うことができる。 3) 自身の行動を振り返り、改善すべきところは、自ら対応策を考え実行することができる。 4) 助言や指摘、指導を素直に受け入れ、次の行動に活かすことができる。 5) 常に疑問を持ち、利用者への理解を深めるために自ら文献で調べる等、探究する姿勢をもつことができる。 6) 自身が目標とする作業療法（士）像を述べることができる。 (5) 施設や病院の組織をはじめ、リハビリテーション部門、作業療法部門の運営や、スタッフ間の連携の重要性を認識する。 1) 作業療法の診療報酬、介護報酬の意識を持ち業務を遂行できる。 2) スタッフと協働し、部門運営に参加することができる。 3. 実習計画 (1) 実習は作業療法士が従事している施設とする。 (2) 実習時間は1日を概ね8時間とする。 (3) 毎日の臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。								ガイダンス及びセミナーに参加すること。		
教科書	特に指定しない。									
参考文献	『臨床実習の手引き』を配付する。									
備考	成績は、実習セミナー（症例発表会、レポート作成等）、OSCEに実習生指導報告書の内容を踏まえて総合的に判断する。 担当者 作業療法学専攻教員：齋藤佑樹、酒井弘美、外里富佐江、須藤あゆみ、戸田祐子、熊谷竜太、高橋慧									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング								
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-CLP-04								
	●	●	●	●	●									
科目名	臨床実習Ⅳ（総合実習）				単位 認定者	齋藤 佑樹		評価 の方法	実習内容	100 %				
対象学科 必修・選択 配当年次	○ T	必修	3 年	開講時期	通年	単位数	7 単位							
						授業時間数	315 時間							
				授業形態	実習	授業回数	- 回							
授業の概要	臨床実習Ⅳ(総合実習)では、診療参加型によって作業療法技能の向上を目指す。臨床実習指導者の指導のもと、対象者に一連の作業療法を提供しながら、臨床現場における作業療法士の役割と責任について理解し、チームの一員として自覚を持って行動できるようになる。 実習の前には、学内で客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、知識、技能、態度等を総合的に評価するとともに、実習後セミナーを通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。													
到達目標	対象者に一連の作業療法を提供できる。また、広い視野を持ち、臨床現場における作業療法士の役割と責任について理解し、チームの一員として自覚を持って行動できる。													
学修者への期待等	臨床実習にあたっての意義や目的は実習の手引き書の他に臨床実習ガイダンスや各授業においても示す。臨床実習ではこれまで学修した知識及び技術を総動員して主体的に臨むこと。また、記録の作成、提出期限の厳守や施設における規則・心得を守り、実習生として責任ある行動を取ることを。													
授業計画								準備学修						
1. 実習期間 臨床実習：令和7年8月25日（月）～10月17日（金） 2. 実習目的・目標 (1) 臨床実習施設の特性や施設における作業療法（士）の役割と機能を学ぶ。 1) 地域における実習施設の役割を述べることができる。 2) 臨床実習施設における作業療法（士）の役割と機能を述べることができる。 3) 臨床実習施設の特性を踏まえた作業療法（士）の役割を遂行することができる。 (2) 今まで学んだ作業療法の知識と技術・技能および態度を臨床場面に応用し、評価から治療までの基本を臨床実習指導者のもとで実践する。 1) 利用者の全体像把握のために必要な評価計画を立てることができる。 評価から治療までの基本を臨床実習指導者のもとで実践する。 2) 選択した評価手段（検査・測定等）を適切に実施できる。 3) 検査・測定等の結果と利用者の生活を結び付けた解釈や判断ができる。 4) 利用者の全体像をまとめるために必要な情報を選択できる。 5) 選択した情報をもとに全体像をまとめることができる。 6) まとめた全体像から短期・長期目標を設定できる。 7) 短期・長期目標に基づいた治療計画を立案することができる。 8) 作業療法治療・指導を行うことができる。 9) 再評価・最終評価を行うことができる。 10) 利用者に実施した作業療法の一連の流れをまとめることができる。 (3) リハビリテーション・チームの一員としての役割を理解し、協調性のある態度を身につける。 1) リハビリテーション・チームを成立させるために必要な機能を説明できる。 2) リハビリテーション・チームの一員としての作業療法（士）の役割を説明できる。 3) リハビリテーション・チームにおける他職種の役割を説明できる。 4) リハビリテーション・チームの一員として、コミュニケーションを図ることができる。 5) 他職種と連携を取り、チームアプローチを実践できる。 (4) 作業療法士としての基本的な態度を修得し、専門職としての資質の向上・充実を図る。 1) 自ら計画を立て、自己の責任において積極的に課題を遂行することができる。 2) 必要に応じ、自ら進んで臨床指導者や他職員に報告、連絡、相談を行うことができる。 3) 自身の行動を振り返り、改善すべきところは、自ら対応策を考え実行することができる。 4) 助言や指摘、指導を素直に受け入れ、次の行動に活かすことができる。 5) 常に疑問を持ち、利用者への理解を深めるために自ら文献で調べる等、探究する姿勢をもつことができる。 6) 自身が目標とする作業療法（士）像を述べることができる。 (5) 施設や病院の組織をはじめ、リハビリテーション部門、作業療法部門の運営や、スタッフ間の連携の重要性を認識する。 1) 作業療法の診療報酬、介護報酬の意識を持ち業務を遂行できる。 2) スタッフと協働し、部門運営に参加することができる。 3. 実習計画 (1) 実習は作業療法士が従事している施設とする。 (2) 実習時間は1日を概ね8時間とする。 (3) 毎日の臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。								ガイダンス及びセミナーに参加すること。						
											教科書	特に指定しない。		
											参考文献	『臨床実習の手引き』を配付する。		
											備考	成績は、実習セミナー（症例発表会、レポート作成等）、OSCEに実習生指導報告書の内容を踏まえて総合的に判断する。 担当者 作業療法学専攻教員：齋藤佑樹、酒井弘美、外里富佐江、須藤あゆみ、戸田祐子、熊谷竜太、高橋慧		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

						科目ナンバリング RO-2-CLP-05				
学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力					
	●	●	●	●	●					
科目名	地域作業療法実習				単位 認定者	齋藤 佑樹		評価の方法	実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
						授業時間数	45 時間			
				授業形態	実習	授業回数	- 回			
授業の概要	通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションにて、地域包括ケアシステムの中で、作業療法士に求められる役割やマネジメント等について学修する。									
到達目標	地域包括ケアシステムの中で作業療法士に求められる役割やマネジメントについて理解する。									
学修者への期待等	臨床実習にあたっての意義や目的は実習の手引き書の他に臨床実習ガイダンスや各授業においても示す。臨床実習ではこれまで学修した知識及び技術を総動員して主体的に臨むこと。また、記録の作成、提出期限の厳守や施設における規則・心得を守り、実習生として責任ある行動を取ること。									
授業計画								準備学修		
1. 実習期間 臨床実習：令和7年7月28日（月）～8月1日（金）(1週間) 2. 実習目的・目標 (1) 地域における施設の役割や臨床実習施設における作業療法（士）の役割と機能を学ぶ。 1) 地域における実習施設の役割を述べることができる。 2) 臨床実習施設における作業療法（士）の役割と機能を述べることができる。 3) 地域における臨床実習施設の役割と作業療法（士）の役割を遂行することができる。 (2) リハビリテーション・チームの一員としての役割を理解し、協調性のある態度を身につける。 1) リハビリテーション・チームを成立させるために必要な機能を説明できる。 2) リハビリテーション・チームの一員としての作業療法（士）の役割を説明できる。 3) リハビリテーション・チームにおける他職種の役割を説明できる。 4) リハビリテーション・チームの一員として、コミュニケーションを図ることができる。 5) 他職種と連携を取り、チームアプローチを実践できる。 (3) 作業療法士としての基本的な態度を修得し、専門職としての資質の向上・充実を図る。 1) 自ら計画を立て、自己の責任において積極的に課題を遂行することができる。 2) 必要に応じ、自ら進んで臨床指導者や他職員に報告、連絡、相談を行うことができる。 3) 自身の行動を振り返り、改善すべきところは、自ら対応策を考え実行することができる。 4) 助言や指摘、指導を素直に受け入れ、次の行動に活かすことができる。 5) 常に疑問を持ち、利用者への理解を深めるために自ら文献で調べる等、探究する姿勢をもつことができる。 6) 自身が目標とする作業療法（士）像を述べることができる。 (4) 実習施設の組織をはじめ、リハビリテーション部門、作業療法部門の運営や、スタッフ間の連携の重要性を認識する。 1) 作業療法の診療報酬、介護報酬の意識を持ち業務を遂行できる。 2) スタッフと協働し、部門運営に参加することができる。 3) リスクマネジメントができる。 3. 実習計画 (1) 実習は作業療法士が従事している施設とする。 (2) 実習時間は1日を概ね8時間とする。 (3) 毎日の臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。								ガイダンス及びセミナーに参加すること。		
教科書	特に指定しない。									
参考文献	『臨床実習の手引き』を配付する。									
備考	成績は、実習セミナー（症例発表会、レポート作成等）、OSCEに実習生指導報告書の内容を踏まえて総合的に判断する。 担当者 作業療法学専攻教員：齋藤佑樹、酒井弘美、外里富佐江、須藤あゆみ、戸田祐子、熊谷竜太、高橋慧									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング					
		●	●	●	●	RO-2-CBO-03					
科目名	保健医療福祉連携論					単位 認定者	須藤 あゆみ		評価 の方法	授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位				
	O T	必修	3年			授業時間数	30 時間				
					授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	包括的なリハビリテーションを行うためには、多くの医療専門職との連携が不可欠である。さらに、医療専門職だけでなく、保健・医療・福祉領域の関連職種との連携が重要である。 本講義では、多くの関連専門職とその役割を知り、専門職間の連携の重要性について理解する。										
到達目標	1. 他の関連専門職の専門性を理解できるようになる。 2. 他の専門職と協働し、同じ目標を共有することで自らが目指している職種の専門性を再確認する。										
学修者への期待等	本講義はグループ学修中心の講義である。グループ学修においては積極的な意見交換を期待しています。また、療法士免許取得後も、実際の現場にて、率先して多職種連携を行えるようになることを期待しています。										
回	授業計画					準備学修			担当		
1	多職種連携とは					配付資料の復習をすること。（30分程度）			齋藤 佑樹		
2	他職種の専門性を知る[1]看護師					授業の内容をまとめる。（30分程度）			他学科教員 齋藤 佑樹 外里 富佐江 酒井 弘美 須藤 あゆみ 戸田 祐子 熊谷竜太 高橋 慧		
3	他職種の専門性を知る[2]言語聴覚士					授業の内容をまとめる。（30分程度）					
4	他職種の専門性を知る[3]栄養士					授業の内容をまとめる。（30分程度）					
5	他職種の専門性を知る[4]歯科衛生士					授業の内容をまとめる。（30分程度）					
6	地域ケア会議の役割について					授業の内容をまとめる。（30分程度）			齋藤 佑樹 外里 富佐江 酒井 弘美 須藤 あゆみ 戸田 祐子 熊谷竜太 高橋 慧		
7	医療と教育の連携について					授業の内容をまとめる。（30分程度）					
8	連携する際の工夫を考える[1]グループワーク					発表資料の作成準備をする。（30分程度）					
9	連携する際の工夫を考える[2]グループワーク・発表準備										
10	連携する際の工夫を考える[3]発表										
11	事例検討 [1] 事例提示					発表資料の作成準備をする。（30分程度）					
12	事例検討 [2] グループワーク										
13	事例検討 [3] 発表準備 グループワーク										
14	事例検討 [4] 発表1										
15	事例検討 [5] 発表2										
教科書	配付資料										
参考文献	『信念対立解消アプローチ入門―チーム医療・多職種連携の可能性をひらく』京極真、中央法規										
備考	P T・O T合同授業 課題のフィードバックは授業内に適宜行います。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

須藤あゆみ：精神科病院に勤務し精神障害領域の作業療法に携わってきた。その臨床経験を活かし、連携の重要性や要点について講義を行う。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング RO-3-SPS-01				
	●	●	●	●	●					
科目名	専門支持科目特別演習				単位 認定者	齋藤 佑樹		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	自由	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	本講義では、卒業後の活動における理学療法士・作業療法士として必要な総合的能力を統合することを目的とする。とくに、基礎医学・臨床医学分野に関して3年間で学んだ基礎的な知識および技術を整理し、専門職として活躍できるよう学修する。									
到達目標	1. 臨床医学分野に関して3年間で学んだ知識と技術を整理し、臨床応用ができるようになる。 2. 臨床医学の知識と技術を修得し、作業療法を実践的に展開できるようになる。									
学修者への期待等	1. 授業で使用する資料に従って予習すること。 2. 復習は授業の終わったその日のうちに必ず行うこと。 3. 授業で理解できなかったところはそのままにせず、自分でも調べ、疑問は質問すること。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	運動機能学1：上肢				事前に、国試の達人 運動解剖生理学編と臨床医学編、ヒント式トレーニングの各領域の問題を解いておくこと。（60分程度）				小松 佳路	
2	運動機能学2：下肢								小松 佳路	
3	運動機能学3：体幹・顔面								小松 佳路	
4	運動機能学4：姿勢・歩行								小松 佳路	
5	解剖生理学1：呼吸器系								酒井 弘美	
6	解剖生理学2：循環器系								酒井 弘美	
7	解剖生理学3：腎臓・泌尿器系								酒井 弘美	
8	解剖生理学4：消化器系								酒井 弘美	
9	生理学1：神経、脳、脊髄								酒井 弘美	
10	生理学2：体性感覚								酒井 弘美	
11	生理学3：運動、反射								酒井 弘美	
12	生理学4：特殊感覚、自律神経								酒井 弘美	
13	生理学5：細胞、内臓								酒井 弘美	
14	内科学1 循環器疾患、代謝性疾患								酒井 弘美	
15	内科学2 呼吸器疾患								酒井 弘美	

回	授業計画	準備学修	担当
16	内科学3 消化器疾患 内分泌疾患	事前に、国試の達人 運動解剖生理学編と臨床医学編、ヒント式トレーニングの各領域の問題を解いておくこと。（60分程度）	高橋 慧
17	内科学4 腎臓・泌尿器疾患		高橋 慧
18	人間発達学		外里 富佐江
19	病理学1 感染、炎症、腫瘍		熊谷 竜太
20	病理学2 病理所見、病因		熊谷 竜太
21	整形外科1 骨折、関節リウマチ、OA		高橋 慧
22	整形外科2 脊柱・脊損、切断 他		齋藤 佑樹
23	臨床心理学1 防衛機制、学習理論		熊谷 竜太
24	臨床心理学2 心理検査・心理療法		熊谷 竜太
25	神経内科学1 脳血管障害、高次脳機能障害		平山 和美
26	神経内科学2 末梢神経障害、筋疾患、変性疾患 他		平山 和美
27	リハビリテーション医学（臨床リハ医学）		佐直 信彦
28	精神医学1 精神症状		須藤 あゆみ
29	精神医学2 統合失調症他		須藤 あゆみ
30	精神医学3 認知症	須藤 あゆみ	
教科書	『PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編改訂第2版』ヒントレ研究所 編 南江堂 『PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 臨床医学編改訂第2版』ヒントレ研究所 編 南江堂 『系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能①』坂井 建雄 医学書院* *1年次購入済み		
参考文献	『国試の達人PTシリーズ2023年 運動解剖生理学編 第28版』アイベック 『国試の達人PTシリーズ2024年 臨床医学編 第25版』アイベック 『クエスチョン・バンク 理学療法士国家試験問題解説 2025 共通問題』医療情報科学研究所 編 メ ディックメディア その他、適宜指定する		
備考	1～4回、18～20回、23～30回：P T ・ O T 合同授業		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-3-SPS-02				
	●	●	●	●	●					
科目名	専門展開科目 特別演習				単位認定者	齋藤 佑樹		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	自由	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	本講義では、卒業後の活動における作業療法士として必要な総合的能力を統合することを目的とする。とくに、作業療法学の専門分野に関して3年間で学んだ基礎的な知識および技術を整理し、専門職として活躍できるよう学修する。									
到達目標	作業療法士として、各疾患に対する作業療法の実施に必要な知識・技術が展開できるようになる。									
学修者への期待等	今まで学んだすべての知識、技術を整理・統合するため、予習・復習が必須です。学修計画をきちんと立て、計画性を持って取り組んでください。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	基礎医学復習					これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			酒井 弘美	
2	臨床医学復習					これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			酒井 弘美	
3	作業療法評価学① (ROM、MMT、知覚検査)					これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			戸田 祐子	
4	作業療法評価学② (意識障害、バランス、ADL)					これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			戸田 祐子	
5	作業療法評価学③ (高次脳機能)					これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			戸田 祐子	
6	作業療法評価学④ (精神障害)					これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			熊谷 竜太	
7	作業療法評価学⑤ (老年期障害)					これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			高橋 慧	
8	作業療法評価学⑥ (発達障害)					これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			外里 富佐江	
9	身体障害領域の作業療法① 脳血管障害					脳血管障害の概要を復習し、授業に臨むこと。(1時間程度)			齋藤 佑樹	
10	身体障害領域の作業療法② 高次脳機能障害					脳血管障害の作業療法の章を復習し、授業に臨むこと。(1時間程度)			齋藤 佑樹	
11	身体障害領域の作業療法③ 神経筋疾患					これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			酒井 弘美	
12	身体障害領域の作業療法④ 整形疾患 (骨折、絞扼性神経障害、末梢神経損傷)					主要な整形疾患の概要を復習し、授業に臨むこと。(1時間程度)			齋藤 佑樹	
13	身体障害領域の作業療法⑤ 整形疾患 (関節リウマチ、熱傷 他)					主要な整形疾患の作業療法の章を復習し、授業に臨むこと。(2時間程度)			齋藤 佑樹	
14	身体障害領域の作業療法⑥ 呼吸器疾患・循環器疾患					これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			齋藤 佑樹	
15	身体障害領域の作業療法⑦ 脊髄損傷					これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			齋藤 佑樹	

回	授業計画	準備学修	担当
16	精神障害領域の作業療法① 統合失調症 気分障害	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	須藤 あゆみ
17	精神障害領域の作業療法② 神経症性障害他	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	須藤 あゆみ
18	精神障害領域の作業療法③ 摂食障害・パーソナリティ障害	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	須藤 あゆみ
19	精神障害領域の作業療法④ アルコール依存・薬物依存他	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	須藤 あゆみ
20	精神障害領域の作業療法⑤ 精神障害領域における制度	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	熊谷 竜太
21	高齢期障害領域の作業療法① 加齢変化による障害・住宅改修	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	酒井 弘美
22	高齢期障害領域の作業療法② 認知機能障害	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	戸田 祐子
23	高齢期障害領域の作業療法③ 高齢期に関わる制度	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	熊谷 竜太
24	発達障害領域の作業療法① 正常発達、脳性麻痺	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	外里 富佐江
25	発達障害領域の作業療法② その他の主要疾患	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	外里 富佐江
26	義肢装具学	これまで使用した教科書の義肢装具学の章を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）	高橋 慧
27	福祉機器、住宅改修	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	酒井 弘美
28	画像関連	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	齋藤 佑樹
29	研究法、関連法規	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	齋藤 佑樹
30	作業療法概論、作業活動、まとめ	これまで学修した内容を復習しておくこと。（予習復習各30分程度）	酒井 弘美
教科書	1・2年次に購入した教科書を使用します。詳細については事前に連絡します。		
参考文献	後日指定する。		
備考			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

リハビリテーション学科

- ナンバリング
- 教員一覧
- 実務経験を有する教員一覧
- オフィスアワー
- 成績評価

リハビリテーション学科のナンバリングの見方

【例】RP-1-〇〇〇-01

RP	-	1	-	〇〇〇	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	④

① 学科（専攻）識別番号 （全学共通教養科目も独立した略称）

半角アルファベット（大文字）2桁

全学共通教養教育科目：CO

リハビリテーション学科理学療法学専攻：RP

② 科目レベル

半角数字1桁

教養科目：0（全学共通教養科目も学科独自教養科目も同じ）

専門基礎科目：1

専門展開科目：2

特別科目：3

③ 科目分類

半角アルファベット（大文字）3桁

教養教育分野	人間と文化		HCU	Human & Culture
	人間と社会		HSO	Human & Society
	人間と科学		HSC	Human & Science
専門教育分野	専門支持科目	人体の構造・機能と発達	BSF	Body Structure & Function
		疾病の成り立ちと回復	D&R	Disease & Recovery
		保健医療福祉とリハビリテーション	H&R	Health & Rehabilitation
	専門展開科目	基礎理学療法学	BPT	Basic PT
		理学療法管理学	MNP	Management of PT
		理学療法評価学	ASP	Assessment of PT
		理学療法治療学	FLP	Fielded PT
		臨床実習	CLP	Clinical Practice
		地域理学療法	CBP	Community Based PT
	特別科目		SPS	Special Seminar

④ 連続番号

半角数字2桁

全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語 I	CO-0-HCU-02
歴史と文化	CO-0-HCU-03
大学生活論	CO-0-HSO-01
暮らしの中の法律	CO-0-HSO-02
現代の社会	CO-0-HSO-03
情報処理	CO-0-HSC-01

リハビリテーション学科理学療法学専攻は以下のナンバリングを使用する。

教養教育分野	人間と文化 0 HCU	日本語表現法	CO-0-HCU-01
		コミュニケーション論	RP-0-HCU-01
		英語 I	CO-0-HCU-02
		英語 II	RP-0-HCU-02
	人間と社会 0 HSO	歴史と文化	CO-0-HCU-03
		大学生活論	CO-0-HSO-01
		暮らしの中の法律	CO-0-HSO-02
		現代の社会	CO-0-HSO-03
	人間と科学 0 HSC	心理学概論	RP-0-HSO-01
		情報処理	CO-0-HSC-01
		生物学	RP-0-HSC-01
		物理学	RP-0-HSC-02
専門教育分野	専門支持科目 1	健康スポーツ科学	RP-0-HSC-03
		解剖学	RP-1-BSF-01
		解剖学演習	RP-1-BSF-02
		解剖学実習	RP-1-BSF-03
		生理学 I	RP-1-BSF-04
		生理学 II	RP-1-BSF-05
		生理学実習	RP-1-BSF-06
		運動学	RP-1-BSF-07
		運動学演習	RP-1-BSF-10
		運動学実習	RP-1-BSF-08
		人間発達学	RP-1-BSF-09
		病理学	RP-1-D&R-01
		医学概論	RP-1-D&R-02
		内科学	RP-1-D&R-03
		リハビリテーション栄養学	RP-1-D&R-04
		神経学	RP-1-D&R-05
		臨床医学特論	RP-1-D&R-12
		小児科学	RP-1-D&R-06
		整形外科学総論	RP-1-D&R-07
	人体の構造・機能と発達 BSF	整形外科学各論	RP-1-D&R-08
		精神医学総論	RP-1-D&R-09
		老年学	RP-1-D&R-13
		臨床心理学	RP-1-D&R-10
		救急救命医学	RP-1-D&R-11
	疾病の成り立ちと回復 D&R	公衆衛生学	RP-1-H&R-03
		社会福祉概論	RP-1-H&R-02
		医療関連法規	RP-1-H&R-04
		リハビリテーション概論	RP-1-H&R-01
		保健医療福祉とリハビリテーション H&R	
	専門展開科目 2	理学療法学概論	RP-2-BPT-01
		運動療法基礎理論	RP-2-BPT-02
		理学療法研究法	RP-2-BPT-03
		基礎理学療法管理学 MNP	RP-2-MNP-01
		基礎理学療法評価学概論	RP-2-ASP-01
		基礎理学療法評価学実習	RP-2-ASP-02
		骨関節障害理学療法評価学実習	RP-2-ASP-03
		神経障害理学療法評価学実習	RP-2-ASP-04
		臨床理学療法評価学演習	RP-2-ASP-05
		骨関節障害理学療法学	RP-2-FLP-05
		骨関節障害理学療法学演習	RP-2-FLP-06
		神経障害理学療法学	RP-2-FLP-07
		神経障害理学療法学演習	RP-2-FLP-08
		内部障害理学療法学	RP-2-FLP-09
		内部障害理学療法学演習	RP-2-FLP-10
		神経筋疾患理学療法学	RP-2-FLP-13
		発達障害理学療法学	RP-2-FLP-14
		物理療法学	RP-2-FLP-02
		物理療法学演習	RP-2-FLP-03
		義肢装具学	RP-2-FLP-11
		義肢装具学演習	RP-2-FLP-12
		日常生活活動学	RP-2-FLP-01
		日常生活活動学演習	RP-2-FLP-04
		理学療法学特論	RP-2-FLP-15
		理学療法学治療学 FLP	

	臨床実習 CLP	臨床実習Ⅰ（体験実習）	RP-2-CLP-01
		臨床実習Ⅱ（評価実習）	RP-2-CLP-02
		臨床実習Ⅲ（総合実習）	RP-2-CLP-03
		臨床実習Ⅳ（総合実習）	RP-2-CLP-04
		地域理学療法実習	RP-2-CLP-05
	地域理学療法 CBP	地域理学療法学	RP-2-CBP-01
		地域理学療法学演習	RP-2-CBP-02
		保健医療福祉連携論	RP-2-CBP-03
	特別科目 3 SPS	専門支持科目特別演習	RP-3-SPS-01
		専門展開科目特別演習	RP-3-SPS-02

リハビリテーション学科作業療法学専攻は以下のナンバリングを使用する。

教養教育分野	人間と文化 0 HCU	日本語表現法	CO-0-HCU-01		
		コミュニケーション論	RO-0-HCU-01		
		英語Ⅰ	CO-0-HCU-02		
		英語Ⅱ	RO-0-HCU-02		
		歴史と文化	CO-0-HCU-03		
	人間と社会 0 HSO	大学生活論	CO-0-HSO-01		
		暮らしの中の法律	CO-0-HSO-02		
		現代の社会	CO-0-HSO-03		
		心理学概論	RO-0-HSO-01		
	人間と科学 0 HSC	情報処理	CO-0-HSC-01		
		生物学	RO-0-HSC-01		
		物理学	RO-0-HSC-02		
		健康スポーツ科学	RO-0-HSC-03		
専門教育分野	専門支持科目 1	人体の構造・機能と発達 BSF	解剖学	RO-1-BSF-01	
			解剖学演習	RO-1-BSF-02	
			解剖学実習	RO-1-BSF-03	
			生理学Ⅰ	RO-1-BSF-04	
			生理学Ⅱ	RO-1-BSF-05	
			生理学実習	RO-1-BSF-06	
			運動学	RO-1-BSF-07	
			運動学演習	RO-1-BSF-10	
			運動学実習	RO-1-BSF-08	
		人間発達学	RO-1-BSF-09		
		疾病の成り立ちと回復 D&R	病理学	RO-1-D&R-01	
			医学概論	RO-1-D&R-02	
			内科学	RO-1-D&R-03	
			リハビリテーション栄養学	RO-1-D&R-04	
			神経学	RO-1-D&R-05	
			臨床医学特論	RO-1-D&R-12	
			小児科学	RO-1-D&R-06	
			整形外科総論	RO-1-D&R-07	
			精神医学総論	RO-1-D&R-08	
			精神医学各論	RO-1-D&R-09	
			老年学	RO-1-D&R-13	
			臨床心理学	RO-1-D&R-10	
		救急救命医学	RO-1-D&R-11		
		保健医療福祉とリハビリテーション H&R	公衆衛生学	RO-1-H&R-03	
			社会福祉概論	RO-1-H&R-02	
			医療関連法規	RO-1-H&R-04	
			リハビリテーション概論	RO-1-H&R-01	
		専門展開科目 2	基礎作業療法学 BOT	作業療法概論	RO-2-BOT-01
				作業科学	RO-2-BOT-02
	作業療法理論			RO-2-BOT-04	
	基礎作業学演習			RO-2-BOT-03	
	作業療法研究法			RO-2-BOT-05	
	作業療法管理学 MNO		作業療法管理学	RO-2-MNO-01	
			作業療法管理学演習	RO-2-MNO-02	
	作業療法評価学 ASO		作業療法評価学原論	RO-2-ASO-01	
			身体機能作業療法評価学実習	RO-2-ASO-02	
			精神機能作業療法評価学実習	RO-2-ASO-03	
			疾患別作業療法評価学実習Ⅰ	RO-2-ASO-04	
			疾患別作業療法評価学実習Ⅱ	RO-2-ASO-05	
	作業治療学 TOT		作業療法治療学	RO-2-TOT-01	
			作業療法治療学演習	RO-2-TOT-02	
			身体機能作業療法学実習	RO-2-TOT-06	
			精神機能作業療法学実習	RO-2-TOT-07	
			病期別作業療法学実習Ⅰ	RO-2-TOT-08	
			病期別作業療法学実習Ⅱ	RO-2-TOT-09	
			病期別作業療法学実習Ⅲ	RO-2-TOT-10	
			作業療法基礎演習	RO-2-TOT-03	
作業療法応用演習			RO-2-TOT-11		
作業療法総合演習			RO-2-TOT-16		
高次神経障害作業療法学			RO-2-TOT-12		
日常生活活動学			RO-2-TOT-04		
社会生活行為学演習			RO-2-TOT-13		
義肢装具学			RO-2-TOT-14		
臨床作業療法演習Ⅰ			RO-2-TOT-05		
臨床作業療法演習Ⅱ			RO-2-TOT-15		
臨床作業療法演習Ⅲ	RO-2-TOT-17				

		臨床実習 CLP	臨床実習Ⅰ（体験実習）	RO・2・CLP・01
			臨床実習Ⅱ（評価実習）	RO・2・CLP・02
			臨床実習Ⅲ（総合実習）	RO・2・CLP・03
			臨床実習Ⅳ（総合実習）	RO・2・CLP・04
			地域作業療法実習	RO・2・CLP・05
		地域作業療法 CBO	地域リハビリテーション論	RO・2・CBO・01
			職業リハビリテーション論	RO・2・CBO・02
			保健医療福祉連携論	RO・2・CBO・03
		特別科目 3 SPS	専門支持科目特別演習	RO・3・SPS・01
			専門展開科目特別演習	RO・3・SPS・02

教員一覧

	氏名	電話番号	E-mail
1	あみもと かず 網本 和	022-308-2071 (代表)	k_amimoto@seiyogakuin.ac.jp
2	はら かずひこ 原 和彦		k_hara@seiyogakuin.ac.jp
3	いはし こうじ 伊橋 光二		k_ihashi@seiyogakuin.ac.jp
4	かねや さとみ 金谷 さとみ		s_kaneya@seiyogakuin.ac.jp
5	とざと ふさえ 外里 富佐江		f_tozato@seiyogakuin.ac.jp
6	ひらやま かずみ 平山 和美		k_hirayama@seiyogakuin.ac.jp
7	さかい ひろみ 酒井 弘美		h_sakai@seiyogakuin.ac.jp
8	さいとう ゆうき 齋藤 佑樹		yu_saitou@seiyogakuin.ac.jp
9	おおわだ ひろみ 大和田 宏美		h_oowada@seiyogakuin.ac.jp
10	やまだ ゆうこ 山田 裕子		y_yamada@seiyogakuin.ac.jp
11	おおはし たかこ 大橋 孝子		t_oohashi@seiyogakuin.ac.jp
12	さかがみ ひさお 坂上 尚穂		h_sakagami@seiyogakuin.ac.jp
13	いとう だいすけ 伊藤 大亮		d_itou@seiyogakuin.ac.jp
14	すとう あゆみ 須藤 あゆみ		a_sutou@seiyogakuin.ac.jp
15	とだ ゆうこ 戸田 祐子		y_toda@seiyogakuin.ac.jp
16	こせき ともり 小関 友記		tm_koseki@seiyogakuin.ac.jp
17	ささき ひろと 佐々木 広人		ht_sasaki@seiyogakuin.ac.jp
18	もりなが ゆう 森永 雄		y_morinaga@seiyogakuin.ac.jp
19	すずき ゆうじ 鈴木 裕治		y_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
20	あらまき よしひろ 荒牧 隼浩		y_aramaki@seiyogakuin.ac.jp
21	くまがい りゅうた 熊谷 竜太		r_kumagai@seiyogakuin.ac.jp
22	たかはし さとし 高橋 慧		s_takahashi@seiyogakuin.ac.jp
23	こまつ よしのり 小松 佳路		ys_komatsu@seiyogakuin.ac.jp

リハビリテーション学科 理学療法専攻 実務経験を有する教員の科目一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
理学療法研究法	1	網本和	大学病院にて20年以上の臨床経験を有し、その間臨床研究について多数の学会発表、論文作成を行ってきた。
理学療法管理学	2	金谷さとみ	医療機関、介護施設での管理者の経験が長く、行政にも従事していたことがあり、授業に生かせる
地域理学療法学演習	1	森永雄	地域在住高齢者を対象とした臨床経験・研究あり（フレイル、サルコペニア、生活活動量など）。また、PT協会のフレイル対策推進マネジャー、介護予防推進・地域ケア会議推進リーダーの認定あり。この経験を基に、講義を担当する。
保健医療福祉連携論	1	須藤あゆみ	精神科病院に勤務し精神障害領域の作業療法に携わってきた。その臨床経験を活かし、連携の重要性や要点について講義を行う。
	5	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
	93	設置基準上の標準単位数	

リハビリテーション学科 作業療法専攻 実務経験を有する教員の科目一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
作業療法管理学演習	1	熊谷竜太	宮城県作業療法士会に所属し、部や委員会の主担当理事やリーダーを担ってきた。これまでの経験を活かしながら、セルフ・チーム・組織のマネジメントについて講義を行う。
臨床作業療法演習Ⅲ	1	須藤あゆみ	精神科病院に勤務し精神障害領域の作業療法に携わってきた。その臨床経験を活かし、一連の作業療法過程について講義する。
		高橋慧	地域の通所施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、高齢者に対する評価や介入の実際について講義を行う。
保健医療福祉連携論	1	須藤あゆみ	精神科病院に勤務し精神障害領域の作業療法に携わってきた。その臨床経験を活かし、連携の重要性や要点について講義を行う。
	3	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
	93	設置基準上の標準単位数	

2025（令和7）年度 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室隣にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。